

森林利用ガイド事業における 一考察（95）

本荘署・担当区事務所 ○庄司 卓矢
経 営 課 藤井 征一

はじめに

森林に対する国民の要請が多様化している中で、森林空間を利用し、都市住民等に、森林との触れ合いの場を提供することが、今日的な課題となっています。

このような社会情勢を背景に、当署では、地元市民を対象に森林の中で、自然と親しみ、森林・林業を学ぶ喜びを味わうことが出来るように、森林利用ガイド事業「紅葉狩」を計画し実施しました。

初めての試みで、実施にあたり不安もありましたが、参加者の好評を得ることが出来たので、今後の森林利用ガイド事業を実施する際の参考に供するため、実施内容・アンケート調査の分析結果等を報告します。

1. 実施計画について

当署では、初めての事業であり、地元市民の森林利用ガイド事業に対するニーズも把握していないことから、当署で一番喜ばれる地域を、一番良い時期に実施するという考えの基に、鳥海自然休養林の中島台風景林ゾーン地区（本荘事業区67、68林班）を設定しました。

森林利用ガイド事業の目玉はムラサキヒシャクゴケ群落・ブナ奇形木と伏流水とし、ブナを主体にした広葉樹が一番映える紅葉の時期を選び、実施することにしました。

（1）実施日と時間帯

ア、実施日は、紅葉の最盛期を考慮し、10月12日と10月19日を選定した。

イ、時間帯は、主婦層も参加し易いことを考慮し9.00～15.00とした。

(2) 参加募集人員

参加人員は、経費の節減等から隣接署の26名乗りのマイクロバスを利用することとしたため、1回20名とした。

(3) 参加費及びその積算

ア、参加費

大人2,000円 子供1,000円

イ、積算 (一人当たり)

種 別	経費の内訳
職員人件費	2人×12,673円× $\frac{6}{8}$ = 19,010
旅 費	2人×830円 = 1,660
傷害保険料	20人×380円 = 7,600
芋の子汁代	= 10,000
計	38,270

38,270円

————— = 1,914円 ≐ 2,000円

20人

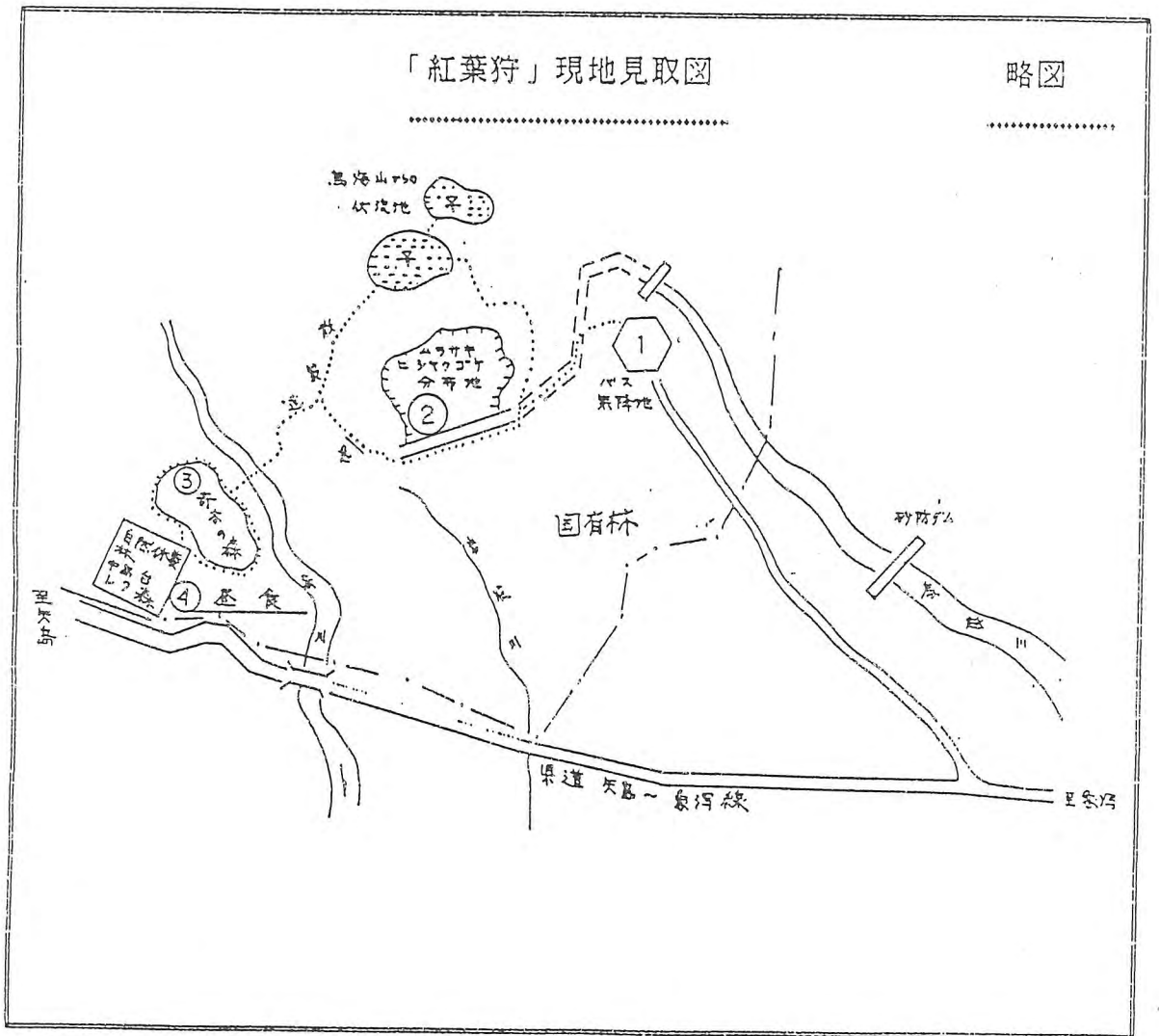
(4) 募集方法

応募方法は、チラシの新聞折込み、町内会の活用等を検討した結果、確実かつ広範囲にしかも公平に周知出来ることから、市の広報を活用することで市側に打診したところ快諾して頂き、10月1日付けの広報本荘に掲載してもらうことにしました。

(5) 紅葉の「しおり」作成

楽しい、有意義な「紅葉狩」にするため、次のような内容の「しおり」を作成しました。

- a、工程表（時間割り等）
- b、参加者名簿
- c、森林に関する豆知識（日本の森林面積、森林とのかかわり、森林の区分、木の年輪、落ち葉のしくみ等）
- d、紅葉狩の現地見取図（下図のとおり）



2. 実施状況について

(1) 参加者の申し込み状況

ア、参加者の応募状況

応募状況は、予定人員2回で40名に対して、市の広報（募集案内掲載）が配布されてから10日間位いで予定人員の40名以上になりました。最終的には、70名以上の応募者となり、今回の企画に対する潜在応募者の多いことを伺うことが出来ました。

最終的な紅葉狩参加人員は、グループ申し込みの関係もあり1回目21名2回目22名で実施しました。

イ、参加者の状況

今回は、2回とも土曜日で時間帯が9.00～15.00ということもあり、婦人層しかも高齢者が多かった。

参加者の男女別・年齢別区分については、次のとおりです。

1回目（10月12日）

単位：人

年齢区分	30代	40代	50代	60代以上	計
男	0	1	0	8	9
女	2	4	1	5	12
計	2	5	1	13	21

2回目 (10月19日)

単位：人

年齢 区分	30代	40代	50代	60代 以上	計
男	0	0	0	5	5
女	0	4	4	9	17
計	0	4	4	14	22

(2) 森林利用ガイドの内容

ア、車中（マイクロバイ）案内

ア) 森林利用ガイド事業を実施した主旨

イ) 日程表

ウ) 森林等に関する豆知識

(日本の森林面積、森林とのかかわり、森林の区分、木の年輪、落ち葉のしくみ等)

エ) 営林署の仕事の内容

イ、現地の案内

ア) 現地の概況説明

イ) 樹木の区分、名称

ウ) ムラサキヒシャクゴケの生態

エ) ブナ奇形木由来

オ) 伏流水のメカニズム

(3) 実行結果

収入	43人 × 2,000円 = 86,000円
支出 (直接費) 計	障害保険料 43人 × 378円 = 16,254 芋の子汁代 14,000 資料代 9,590 39,844
収支差	46,156円

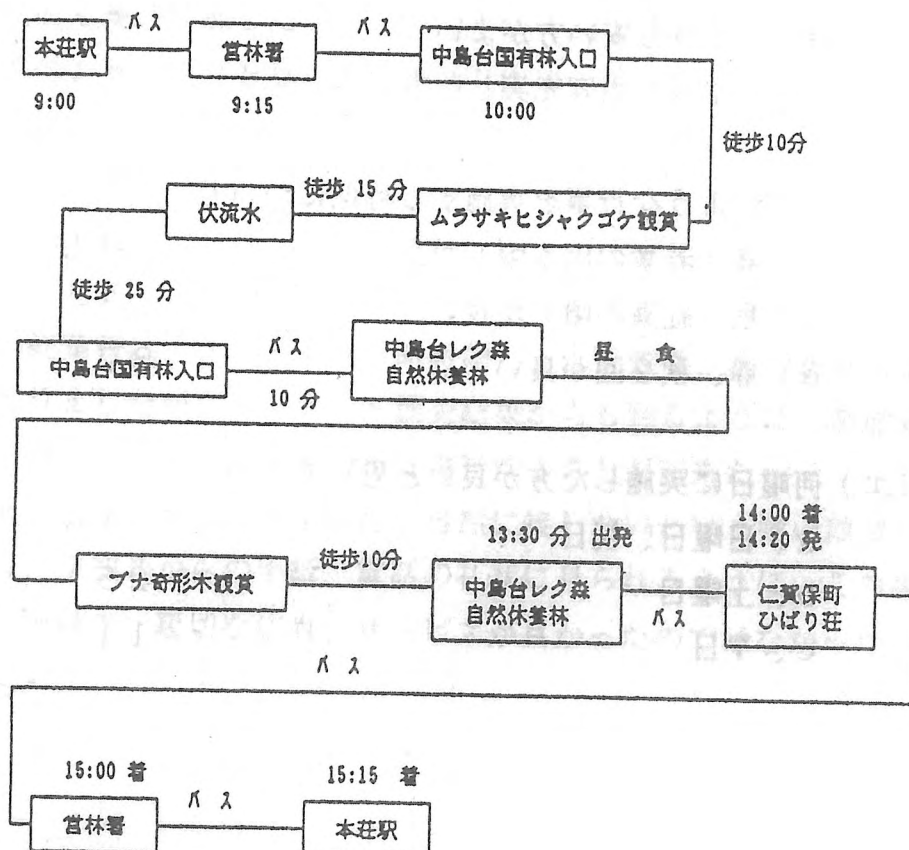
直接費の収支差では、46,156円の黒字となった。この額から従事職員の旅費(830円 × 6人 = 4,980円)を除くと、従事職員一人当たり6,862円{(46,156 - 4,980) ÷ 6}の収益となった。

これは、特定・受託事業においては一人5,000円以上という条件から見ても一定の評価ができるものです。

今回は安全対策から予定より多くの職員で実施したもので、今後もっと少ない職員でできないか検討し、更に収益性を高める必要があります。

(4) 実行の行程

行程表



3. アンケート調査の実施と分析について

当営林署での森林利用ガイド事業は、初めての計画であり、今回の計画に対する参加者の評価と、来年度以降森林利用ガイド事業を計画する場合の参考にするため参加者の了解を得た上で、全員のアンケート調査を実施したところ、100%の回答を得ることが出来ました。

内容は次のとおりです。

ア、アンケート調査の項目と回答結果

(ア) 今回の紅葉狩に参加した感想

a、良かった	32人	74%
b、まあまあ	11	26
c、よくなかった	0	0

(イ) 参加料金（傷害保険、ガイド料等）について

a、適当な料金だと思う	31人	72%
b、もう少し安い方がよい	5	12
c、高くても内容充実した方がよい	7	16

(ウ) 今回のような行事を実施する時期について

a、春（若葉の出る頃）が良い	8人	19%
b、秋（紅葉の頃）が良い	3	7
c、春、秋2回が良い	32	74

(エ) 何曜日に実施した方がよいと思いますか

a、日曜日、祝日	7人	16%
b、土曜日	25	58
c、平日	11	26

(オ) 行事の時間について

a、今回の程度(9.00~15.00)	39人	91%
b、今回より長い方がよい(8.00~17.00)	3	7
c、今回より短い方がよい(半日で4時間)	1	2

(カ) ガイドの時間はどうでしたか

a、今回程度の内容で十分	38人	88%
b、もう少し詳しく、専門的な方がよい	5	12

(キ) 行動時間はどうでしたか

a、もう少し自由行動の時間が欲しい	8人	19%
b、今回程度で良かった	35	81

(ク) 今回の紅葉狩に参加して、営林署に対してどう感じたか

a、営林署が身近に感じられるようになった	42人	98%
b、前とあまり変わらない	1	2

(ケ) 次回の行事への参加希望について

a、次回も是非参加したい	28人	65%
b、イベントの内容を見た上で判断したい	15	35
c、次回は参加したいと思わない	0	0

イ、アンケート調査結果の分析

(ア) 全般的に見て

今回の紅葉狩は、2回とも曇り時々雨という天候で、実行が危ぶまれた一面もありましたが、アンケート調査結果からも判るように、参加者に大変喜んで頂き、全般的に好評の内に実行することが出来た。

この背景には、参加者が山に行き自然に接したいという強い願望があったことと、参加者からの手紙、電話の礼状に見られるように、この事業に従事した職員の、親切な対応、サービスが良かったのではなかったかと思っています。

(イ) 今回の計画内容

今回の計画内容については、ほぼ良好と判断出来るが、参加料金で「高くても内容を充実した方が良い」7人(16%)、ガイドの説明について「もう少し詳しく、専門的な方が良い」5人(12%)、行動時間についても「もう少し自由行動の時間が欲しい」8人(19%)については、今後森林利用ガイド事業を計画する際に、考慮しなければならない事項だと考えます

(ウ) 今後の森林利用ガイド事業の計画について

アンケート調査から、春の新緑・秋の紅葉の時期の年2回程度は、山に行き、自然に接したいと言う強い希望があることが、十分把握出来ました。

また、次回も是非参加したいと言う人が28人(65%)も居た事は、この事業を繰り返し実施出来る可能性を十分示唆しているものと思っています

4、森林利用ガイド事業を計画・実行する際の留意点

今後、当事業を計画する場合に留意すべき点について述べれば、次のとおりです。

ア 参加者の募集

- a、募集方法は、地域の広報紙の活用が有効です
- b、出来るだけ、参加目的が同じ人を集めるようにする方がよい
- c、1回の人員は、20名～25名が適当だと思う
- d、参加料、日帰りの場合は2,000～2,500円程度が適当だと思う
- e、服装、履物、雨具等の指示した方がよい

イ 場所、時期の選定

- a、印象に残る目玉となる箇所を1箇所以上入れる
- b、行程・時間配分に、無理な計画をしない
- c、春の新緑と秋の紅葉は、それだけでも観賞の価値が高く失敗は無い

ウ ガイドの内容

- a、専門用語を出来るだけ使用しないようにして、親切に解り易い言葉で説明する
- b、参加者のニーズに合わせた説明をする
- c、下調べ等により、十分な知識と自信を持って説明する

おわりに

今回の森林利用ガイド事業を実行してみて、一番強く感じたことは、地域の中にも山に行き、森林と接し、自然を楽しみたいと言う強い願望を持っている人が沢山いることと、収入確保の面では、大きな期待は無理にしても、とにかく、営林署と地域社会が疎遠になりがちなか中で、今回のアンケート調査からもわかるように営林署と地域社会を結びつける、大きなパイプ役を果たしてくれることが充分期待出来るということが分かった事だと思います。

また、色々と反省すべき点多かった訳ですが、森林利用ガイド事業について来年度以降も、継続して実施して行くことが充分可能なことも把握できたこと、営林署の仕事の内容も理解してもらったこと等も、大きな成果であったと思います。

この事業を、来年度以降も継続して実施して行く事で、地域社会と一層一体感のある国有林経営を、更に推進して行けるものと考えています。